

ミズナラ二次林の間伐後の林分状況について

十勝東部森林管理署 森林官

朝長 正雄

研究の背景・目的

平成12年に、広葉樹二次林を優良材の生産可能な林分に誘導していくことを目的として、間伐強度の差によりどのような影響がでるか进行调查するための試験地を設置した。設置後14年経過した現在の林況について報告する。

研究の内容・成果

林分概要

十勝東部森林管理署318て林小班
間伐実施:平成12年(山火再生林 70年生)
樹種:ミズナラ
試験地面積:各0.20ha
(間伐率45%・37%・26%)

調査内容

試験地内の樹木の胸高直径・樹高を調査。

調査結果および考察

胸高直径の成長量については、間伐前の径級ごとに成長量に差が出るという結果になった。(図1)

また、総材積については間伐後、回復してきているが回復速度については間伐強度の影響がでている。(図2)

このことから間伐強度ごとに成長の仕方に差が見られ、間伐後の材積の回復にも影響が見られることから、利用目的に適した間伐強度を選択することにより目的の径級を目指した効率的な施業を実施できるのではないかとと思われる。

今後の展開

樹木の形質や成長量の変化についてさらに経過観察を行い、伐期を迎えるまでの間伐の影響を調査していきたい。

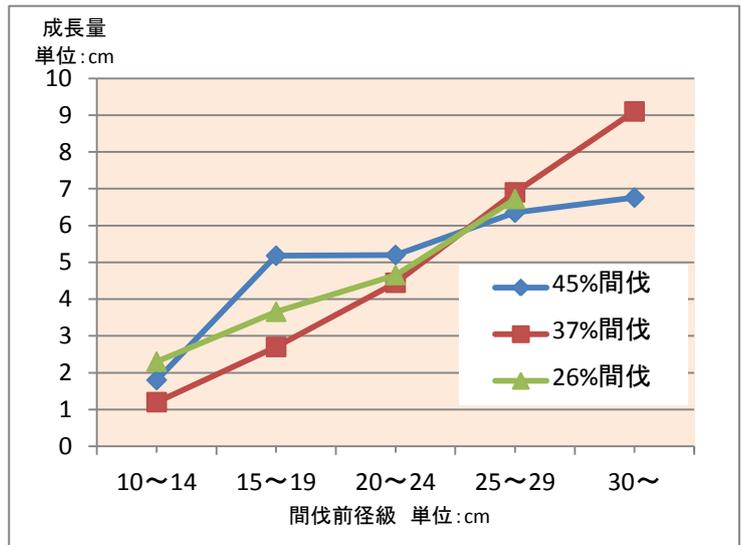


図1 間伐前径級ごとの直径の成長量

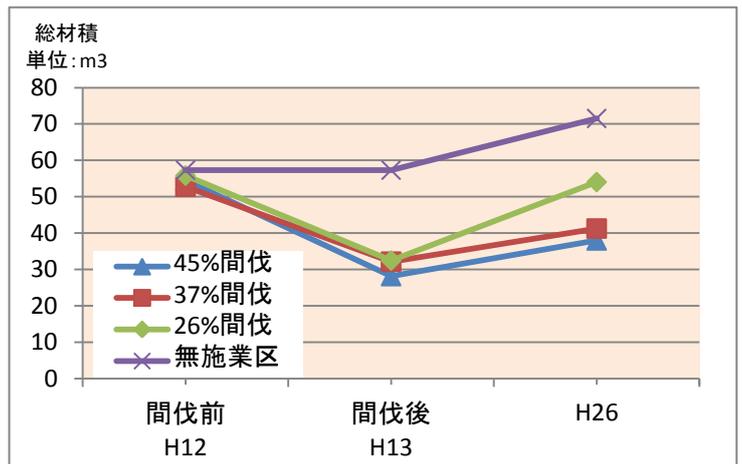


図2 総材積の推移

～メモ～